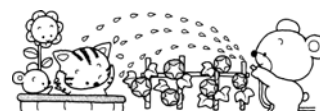


第1回 学校司書研修会



7月14日、15日、16日、「第1回学校司書研修会」が総合図書館で行われました。新型コロナウイルス感染防止対策で、3日間に分かれての開催でした。

はじめに、1日目と3日目には学校指導課齊藤課長、2日目には教育支援課岡崎課長より、コロナ禍の中でこそ子どもたちにとって読書が大切になってくるのではないかと、ということや、今後の学校司書としての働き方について話していただきました。

研修では、前半、学校指導課田中主任指導主事より、本年度の学校図書館教育について、教育支援課藤田さんより、本年度の勤務についての説明がありました。

子どもの読書活動の推進のため学校図書館の活性化を図るためにどのような活動をしていけば良いか、また、勤務体制についての質問等があり、共通理解を図ることができました。

後半は、学校図書館支援センターより、「学習支援用図書」についての説明、そして、本の帯を使った花づくりを行いました。

最後に、区ごとのグループに分かれて情報交換も行いました。コロナ禍の中、学校図書館の運営等、また、勤務についてもさまざまな意見交換ができ、有意義な研修が行われました。



グループ情報交換



本の帯を使った花づくり



色とりどりの帯の花

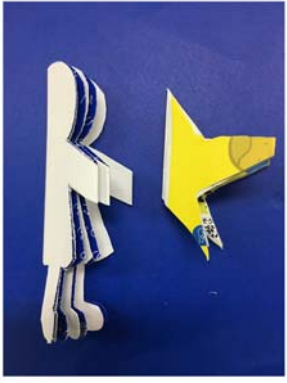
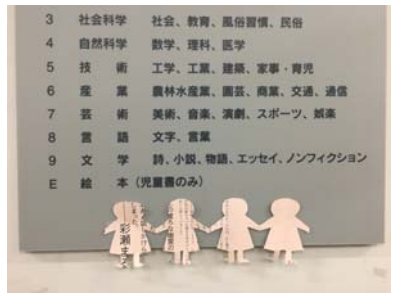
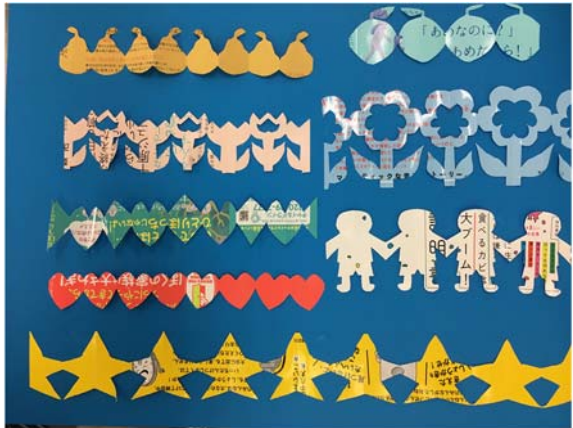
本の帯を使った9月の展示・掲示

つなげて つながる。

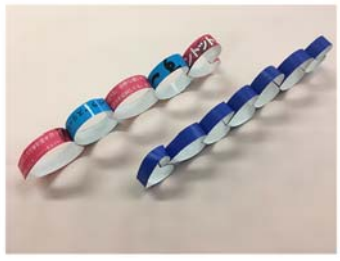
掲示物で温かい
図書館に！



帯の長さ、幅を生かして、つながる切り絵を作りました。図書館掲示物の周りに掲示することで、掲示物がより生きるのではないのでしょうか。



帯は細長く、紙が強
いので、短冊やカード
としてさまざま活用
ができます。
図書委員会の子ど
もたちは大人より柔軟
に発想できそうで
すね。



丸をつなげ
て、はらぺこ
あおむし！



7月の学校司書研修では、帯を使った花を色とり
どり作りました。図書館に掲示されたでしょう
か？ ぜひ、子どもたちと作ってみてください。

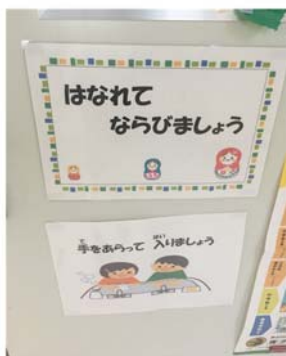
Hello! 学校図書館

今月は片江小学校の図書館を紹介します。

片江小学校は、児童数584人、22学級の学校です。訪問させていただいた日は、梅雨末期の豪雨の中でしたが、校長先生に笑顔で出迎えていただき、教室からは子どもたちの元気な声が聞こえてきました。

さっそく教頭先生に図書館まで案内していただきました。ちょうど1年生が本を借りに来ましたが、図書館での約束をきちんと守って借りることができていることに感心しました。図書館内は、きれいに整理され、明るい雰囲気を感じられ、さまざまな工夫のある図書館でした。

○ 新型コロナウイルス感染防止のための安全対策の工夫



一席ずつ空ける、一方通行などの、コロナ感染防止のための対策がしっかり取られていました。子どもたちは足元のテープを見ながら、貸出カウンターの前に並んでいました。



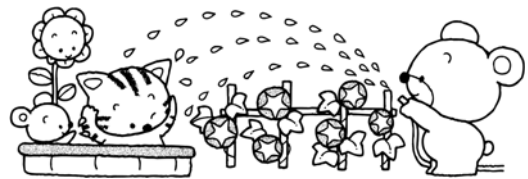
○ 学習内容に合わせた本の配架の工夫



学習した内容が、図書館の本で、さらに深めたり、広げたりすることができる配架の工夫がされていました。



中学年から日本十進分類法について教科書で学びます。図書館に日本十進分類法についての掲示があると、本を選ぶのが楽しくなりそうです。高学年や中学生になると、その分類に「なるほど」と、納得するようになります。



○ 楽しく本を選ぶことができる工夫



季節の本やシリーズの本など、子どもたちが本を選びやすいように配架されていて、図書館が明るく感じました。

9月生まれの文学者

中川 李枝子と「ぐりとぐら」

1935年9月29日 北海道札幌市生まれ

中川氏は、札幌市に生まれ、保育士として働きながら執筆を続け、1962年「いやいやえん」で作家デビューをしました。

「ぐりとぐら」では、森の中で大きな卵を見つけ、その卵でカステラを作るという話があります。この見つけた卵でカステラをつくるという話の展開を、中川氏は、「保育士をしていた時、園児にとってホットケーキがとても大人気でした。そこで、子どもたちに人気があったホットケーキに負けないくらい子どもたちをあっという間に驚かせたかったため、当時高級なお菓子だったカステラを森の中で見つけた卵で作るようにしました。」と、言っています。「ぐりとぐら」のシリーズは、累計2400万部で、たくさんの人から読まれています。

また、1988年公開のアニメ映画「となりのトトロ」のオープニングテーマ「さんぽ」も書きました。さらに、戦争のため小学校を3回転校した体験をもとに教科書向けに執筆した「くじらぐも」は、小学校1年生の国語教科書に掲載されています。

中川氏の作品の挿絵は、実の妹の画家、山脇百合子（やまわきゆりこ）氏が描いています。



あさの あつこ と「バッテリー」

1954年9月14日 岡山県美作町生まれ

あさの氏は、岡山県の図書館もない自然の中で生まれ育ちました。自宅にあった小説を読むことを通して、作家になる夢を持ちました。

岡山の小学校の講師として2年間働いたり、医院受付と医院事務をしたりしながら、3人の子どもを育て、末の娘が入園したのを機会に、1991年37歳の時「ほたる館物語」で、作家デビューをしました。はじめて見本の本が届いた時、あさの氏は、本を抱き、部屋中を飛び回り、「これで死んでもいい」と泣いて喜んだそうです。その後、1996年に出版された「バッテリー」（全6巻）は、児童文学では異例ののべ1000万部を超えるベストセラーになりました。

「バッテリー」は、天才ピッチャーとして圧倒的な才能を与えられた少年・原田巧と巧の才能に惚れて野球を続けるキャッチャー・永倉豪の1年間を描いた作品です。

「バッテリー」は、その登場人物たちの悩みや葛藤が幅広い層の人々の共感を呼び、人気になりましたが、あさの氏自身は野球の経験がないそうです。

作品にとどまらず、結婚して子どもを育てながらも作家への夢を諦めなかったあさの氏の生き方は、多くの人に感動を与えています。

【あとがき】 夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に響いていることでしょう。コロナ禍の中のスタートですが、さまざまな行事も計画されていることと思います。このようなでの学習だからこそ、読書活動をすることで、学習したことを補ったり、深めたり、広めたりしましょう。子どもたちの世界が広がることと思います。

図書館員のひみつの本棚 第172回

今月は低学年向けの絵本です。

『こんな日だってあるさ』

パトリシア・ライリー・ギフ／さく スザンナ・ナティ／え

あきの しょういちろう／やく 童話館出版 2006年 ¥1500(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年★★★★ 小中学年★★★★ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

小学校2年生の男の子、ロナルド・モーガンは、きょうはついていない。

へんなあだ名をつけられるし、友達の手当を間違えて食べてしまう。教科書をみんなの前で間違えず読むことができなかつたし、鉢植えも割ってしまった。タイラー先生にも注意されてばかり。

帰りにタイラー先生がロナルドに手紙をくれた。「持って帰って、自分で読んでごらんさい。」
とって…。

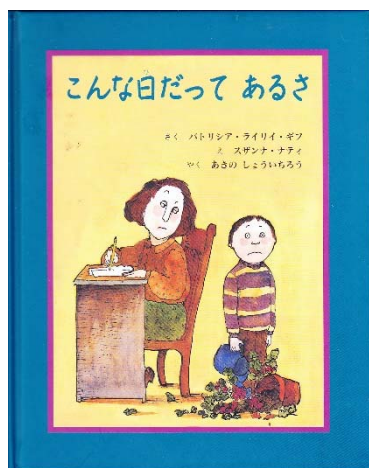
<子どもに手渡す時のポイント>

遠くから見ると絵が見えづらいため、読み聞かせをするなら少人数対象になると思います。声に出して読んで6分と少しです。一人読みでも楽しめる絵本です。

タイラー先生はずっと不機嫌な顔で描かれているので、読んでいる子どもも、最後の手紙の内容に少し驚くでしょう。

最近ではコロナの影響もあり、大人でも落ち込んでしまう毎日です。タイラー先生のように、明日へと希望が持てる言葉を、大人が子どもに手渡していったらと思います。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。



発行： 福岡市教育委員会 総合図書館 図書サービス課

電話： 092-852-0639

FAX： 092-852-0801